

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
訪問介護員実習（こころとからだのしくみと生活支援技術） Practicum of Visiting Care-Giver		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択（訪問介護員ユニット必修）	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
訪問介護員講座Ⅰ・Ⅱ 訪問介護技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
生活技術論 訪問介護員講座Ⅲ				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
中島 佳子、和田 晴美、森 千佐子、新井 文子		福祉棟 （2F, 3F）	初回授業で説明します	授業中に指示します
授業の概要				
訪問介護員実習（こころとからだのしくみと生活支援技術）の授業では、利用者個々のニーズを的確に把握し、求められる支援を導き実践するための思考過程である「介護過程」を学ぶ。さらに総合生活支援技術演習を行い、事例による介護技術の展開を通して基礎的能力の向上を目指す。実習では施設サービス実習と訪問サービス実習（訪問介護・訪問入浴）を行い、それぞれの事業所における介護職員の役割を学ぶ。また、業務を体験することにより基礎的な生活支援能力の習得を目指す。				
授業の到達目標				
①介護過程を行う目的と介護過程の構成要素を理解できるようにする。 ②尊厳を保持しつつ、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮して、その人の在宅・地域等での生活を支えるための基礎的介護技術や知識を習得できるようにする。 ③介護サービス施設、事業所における介護職員の役割や業務の実際を理解できるようにする。 ④施設や在宅における利用者の生活を知ること、利用者、家族について理解を深められるようにする。				
授業の方法				
介護過程は講義と演習の組み合わせで行う。総合生活支援技術演習は事例を使用した介護技術の展開方法を学ぶ。また、施設サービス実習と訪問介護サービスの訪問介護員同行による実習及び訪問入浴車による訪問入浴の見学実習を行う。				
学習の成果				
①介護過程を行う目的と介護過程の構成要素を列挙することができる。 ②紙上事例を通して、介護過程の一連の流れを理解することができる。 ③事例を通して利用者の心身の状況に合わせた介護を考え、生活支援技術を提供することができる。 ④実際の施設サービスと訪問通所サービスの現場を理解することができる。 ⑤施設サービス・訪問通所サービスを利用している利用者の状況を理解することができる。 ⑥利用者へのサービスの内容、提供の方法について理解することができる。 ⑦現場での援助活動を基に自分なりの考察・感想を含め適切な記録の方法を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	こころとからだのしくみと生活支援技術 介護過程の基礎的理解① 介護過程の目的 構成要素（第1回～3回担当：和田）			
第2回目	こころとからだのしくみと生活支援技術 介護過程の基礎的理解② 介護過程の展開			
第3回目	こころとからだのしくみと生活支援技術 介護過程の基礎的理解③ 介護過程の展開			
第4回目	こころとからだのしくみと生活支援技術 生活支援技術演習① 生活支援技術の復習（第4回～7回担当：和田、森、新井）			
第5回目	こころとからだのしくみと生活支援技術 生活支援技術演習② 生活支援技術の復習			
第6回目	こころとからだのしくみと生活支援技術 生活支援技術演習③ 技術の試験とまとめ			

第7回目	こころとからだのしくみと生活支援技術 生活支援技術演習④ 技術の試験とまとめ	
第8回目	①施設実習（介護老人福祉施設）6時間 （第8回目～11回目 担当：中島・和田）	
第9回目	・施設でのオリエンテーションを受ける ・実習中は施設の指導者に従う ・記録を作成し、期限までに提出する	
第10回目	同上	
第11回目	同上	
第12回目	②訪問介護実習（訪問介護サービス同行訪問による業務実習）6時間 （第12回目～15回目 担当：中島・和田）	
第13回目	・訪問入浴車による訪問入浴の見学を行う	
第14回目	・訪問介護サービス提供事業所での実習となる ・訪問介護員に同行し、利用者の居宅にて実習を行う	
第15回目	・実習中は、指導者あるいは訪問介護員の指示に従う ・記録を作成し、期限までに提出する	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業・実習への参加状況等により評価を行う。評価基準Sは、授業・実習共に準備をして臨み、常に積極的に参加し自らの意見を述べること。他者からの助言は素直に聴き、行動を改められること。
レポート	50%	実習日誌で評価をする。評価基準Sは、実習日誌を期限厳守で提出できている。毎日の目標が明確であり、適切な表現で自分自身の学びや振り返りが理路整然と記載できている。さらに文章に誤字・脱字がない。
調査報告書		
小テスト	30%	事例を用いた生活支援技術の実技テストを行う。
中間・学期末試験		
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
介護職員初任者研修課程テキストシリーズ 3巻（日本医療企画）		
履修上の心得・ルール		
実習オリエンテーションは実習前に実施する。マナーやルール、実習に適した身だしなみを順守し、実習に臨むこと。実習では佐野短期大学の学生の代表として恥ずかしくない行動を意識していること。		